

ソフトテニス選手における心理的競技能力について  
— 競技成績とポジションによる比較 —  
About Psychological Competitive Ability in soft-tennis player  
- Comparison by game results and position exception -

1K09A123-8      下道 秀真  
指導教員 主査 堀野 博幸 先生      副査 正木 宏明 先生

【目的】

スポーツは「心技体」からなると広くいわれており、「心」の部分の重要性が近年説かれてきた。近代スポーツにおいて、技術的な要因と体力的な要因だけでなく心理的な要因のレベルアップも必要不可欠となってきた。競技種目、性差、競技レベル、ポジションなどの観点から心理的競技能力(心理的スキル)を調べている研究が増えてきた。しかしながら、それぞれのスポーツに焦点を当てた論文は多くない。本研究では日本発祥スポーツである「ソフトテニス」に焦点をあて、ポジションと競技レベルでどういった心理的競技能力の違いがあるのかを調べることにする。

【方法】

対象は埼玉県のクラブチームに所属し、現在もソフトテニス競技を行っている計 115 名の男性である。このうち、ポジションによる振り分けは前衛が 47 名、後衛が 68 名であり、競技レベルによる振り分け(今回は関東大会出場経験の有無による)では上位群が 66 名、下位群が 49 名であった。この被験者 115 名を対象に、心理的競技能力診断調査(DIPCA.3)と、ソフトテニス歴・ポジション・競技レベル・所属チーム調査表を同時に実施し、回収をおこなった。そしてそれらを SPSS ソフトで t 検定と因子得点算出をおこない、比較した。

【結果】

まず、ポジションと 12 尺度における関係については「自己コントロール能力」にのみ有意差がみられた。他の 11 尺度では有意差はみられなかった。次にポジションと 5 因子との関係では、いずれも有意な差はみられなかった。各因子得点及び総合得点においても、全体として顕著な差はみられなかった。

競技レベルと 12 尺度との関係では、「集中力」「自信」「予測力」「判断力」の尺度で有意差がみられた。次に競技レベルと 5 因子との関係は、「自信」と「作戦能力」に有意な差がみられた。また、各因子得点及び総合得点の比較においても、「競技意欲」「自信」「作戦能力」「協調性」の 4 つで上位群が下位群を上回る結果となった。

【考察】

結果でも述べたように、ポジションと 5 因子 12 尺度との t 検定、競技レベルと 5 因子 12 尺度との t 検定、ポジションにおける 5 因子の各因子得点、競技レベルにおける 5 因子の各因子得点の大きく 3 種類、細かく 6 種類にわけて分析をおこなったが、全体的にはポジションと心理的競技能力での有意差はあまりみられず、一方で競技レベルと心理的競技能力との差はあらわれる結果となった。これらの結果から考えると、ソフトテニス競技においては、ポジションが違っていても心理的競技能力にとりわけ影響するものではないということである。しかしながら、ポジションにおいては 12 尺度の 1 つである「自己コントロール能力」だけにおいて有意な差がみられた。ここにおいては尺度得点が高かったのは後衛であった。これは、試合中に様々な駆け引きを行い、絶対的にボールを打つ回数の多い後衛が相手前衛に惑わされたりしないようにするため、前衛よりも後衛の方が高かったのではないかと考えられる。

次に競技レベルにおける 12 尺度の比較では、「集中力」「自信」「予測力」「判断力」において有意な差がみられた。やはり、関東大会の経験の有無で自分に対する自信が持てたりすると考えられる。「集中力」「予測力」「判断力」に関して言えば、競技レベルが高い人の方が各ポイントでの配球や作戦のレベルが高くおこなわれているからと考えられる。1 つのミスが試合を左右するソフトテニスでは、集中力や判断力は必要不可欠である。競技レベルと 5 因子との関係では、「自信」と「作戦能力」にあらわれた。これは前述したように、競技レベルが高い人は自分への自信や試合での作戦が的中したりするからだと考える。各因子得点においても全体的に上位群が下位群よりも上回っており、ポイントの高得点者は特に上位群が大きい値をとるという結果になった。つまり、関東大会の出場の有無で、自分のプレイへの自信や、試合における作戦能力が高いということが明らかになった。